

報道関係各位
展覧会のご案内



2014
10月18日(土)
12月21日(日)

開館時間 10時～18時(展覧会入場、ミーティングは17時30分まで)
休館日 毎週月曜日(ただし11月3日、11月24日は開館し翌日休館)
観覧料 一般700円(60歳以上・大学生600円)・400円
障害者手帳をお持ちの方300円(280円)・高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金 ※10月24日(金)は65歳以上無料
※障害者手帳をお持ちの方の介添者1名までは無料
主催 公益財団法人せたがや文化財団世田谷文学館
後援 せたがや子ども文学館、子どもがっく、地域と博物館、実行委員会
特別協力 水上路子
後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

働くことと 生きることと

水上勉のハローワーク

世田谷文学館

東京都世田谷区東島山1-10-10(株王塚)「丹花公園」駅から徒歩5分
TEL 03-6374-9111 | FAX 03-6374-9120
http://www.setabun.or.jp



東京都世田谷区東島山1-10-10(株王塚)「丹花公園」駅から徒歩5分
TEL 03-6374-9111 | FAX 03-6374-9120
http://www.setabun.or.jp

画像①
展覧会ポスター

展覧会について

「働き方」と「生き方」にかかわる問題は、どの世代にも共通する悩みの一つかもしれません。ここに、一人の作家をご紹介します。小学生で寺院の〈僧侶〉となるべく修行に入り、その後〈薬の行商〉や〈役所勤め〉、〈労働者の監督〉や〈出版・編集業〉、〈代用教員〉や〈洋服の訪問販売〉など、多種多様な職業に就いた、水上勉さんです。

水上さんは、自身の職業遍歴を『働くことと生きること』（東京書籍、1982年）という本にまとめました。天職とはなにか？ 仕事をとおして、どのように人は幸せになれるのか？ を問い続けたのです。そして、次の時代を担う人々に向けて、このように結んでいます。

私のような、挫折ばかりしてきた男の^{こよみ} 暦も、あるいは、小さな^{しるべ} 標になるかもしれない
(中略) 何かの足しになれば幸運である。

本展では約400点の品々を展示し、水上さんからのメッセージを皆さんにお届けします。

作家について



画像②
撮影：槇野尚一

水上勉 (1919～2004)

福井県大飯郡生まれ。10歳で臨済宗相国寺の^{たっちゅう}塔頭、瑞春院（京都）の徒弟となり修行に励むが、17歳で還俗。以後、様々な職業を転々としながらも文筆で身を立てる意欲を失わず、倒産や離婚などあらゆる人間苦に翻弄されながら作品を書き続けた。

1948年に『風部落』『フライパンの歌』を発表し、約10年間の空白の後、『霧と影』で再出発を果たす。1961年の『雁の寺』（直木賞受賞）以後、華々しい作家活動を送る。水上文学は、作者自身の人生哲学に裏打ちされており、労苦の多かった人生経験がその奥行を形作っている。著作『働くことと生きること』では、中学・高校生を対象に自身の経験を語っている。

晩年は、パソコンやインターネットに関心を示し、長野県の仕事場にパソコンを複数台購入し、「**脳のう小が校**」と名づけて地元の子どもたちに開放しようとしていた。パソコンやインターネットを障害者や高齢者、地方に住む者のハンディキャップを補う道具としてとらえていたのかもしれない。

本展の特色・見どころ

- 1 本展は没後 10 年の節目の年に、ゆかりの地の一つである世田谷区*の文学館で開催する展覧会です。

*水上さんは 1963 年から区内成城に居住

- 2 多様な側面をもち、多方向へと拡がりをみせた水上さんの仕事を、著作『働くことと生きること』を柱に据えて、独自の切り口によってご紹介します。
- 3 いわゆる「キャリア教育」の一環として中学校で行われている「職場体験」の場を、当館では「子ども文学館*」事業の一つとして積極的に提供しています。
本展のコンセプトも、未来を担う世代が「働き方」と「生き方」について考える機会になればとの願いから生まれました。さらに、子どもたちにむけて、以下の取り組みを行います。

—高校生以下は観覧無料

—子どものための解説パネルの設置

—展示に加え、子どものための「職場見学」・「職場体験」企画を実施（関連企画参照）

—本展会期終了後、区内学校への出張パネル展示を実施（詳細未定）

*「子ども探偵団」「コトバのミュージアム」「どこでも文学館」などで構成される、子どものためのプログラムの総称。詳しくはホームページ（http://www.setabun.or.jp/report/pub_kids.html）を参照

- 4 『働くことと生きること』に取り上げられている各職業を、書籍化のもとになった連載「なりわいの記」の原稿を中心に、記者時代の執筆記事や取材資料などともに展示紹介します。「保線工」とエネルギー問題、「代用教員」と障害者差別の問題など、社会問題との結びつきにも着目します。
- 5 会場の中心に代用教員時代の分教場を彷彿とさせる教室を再現します。また、会場内では水上さんのことばの音声記録を聴くことができます。
- 6 晩年「サライ」に連載し、読者から圧倒的な支持を得た「折々の散歩道」の原画を約 50 点一挙展示するほか、陶芸作品のなかでも大きな反響を呼んだ「骨壺」を、最初に作陶したものも含めて公開します。

展示構成

第1章 生

自分が何に向いているか。何を職業としたら、貧乏ぐらしでも満足か、ぐら
いの、境界だけはもってほしいと思う。金はかからぬ。心のことだから。

『働くことと生きること』より

展示会の導入となる第1章は「生」と題して、「生まれる」という意味での生い立ち、「生
きる」という意味での多種多様な職業遍歴、そして「生まれ変わる」という意味での作家
活動をご紹介します。

『一休』『金閣炎上』『良寛』などの直筆原稿をはじめ、『雁の寺』、『飢餓海峡』など代表
作の関連資料を展示し、作家・水上勉の足跡をたどります。

第2章 学び

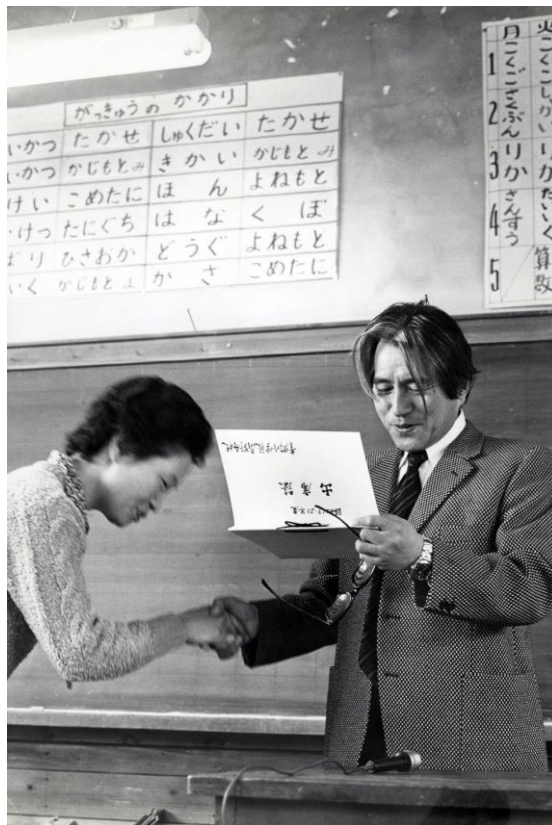
今日生きているぼくは、実は生きているのではなくて生かされている。その
ことをつくづくと思う。

「木の聲草の聲」より

多種多様な職業遍歴のなかでも、禅院の
修行僧時代の「僧職」と、代用教員時代の
「教職」は、聖職ともよばれる仕事の特異
性のためか、水上さんの人生観に大きな影
響を及ぼしました。仏教の教えからは死生
観を、障害を持つ教え子と過ごす授業から
は、子どもの可能性と生きる力を学びまし
た。しかし、現実においては、世俗にまみ
れた寺院運営や周囲の差別意識など、理想
との隔たりに苦しみます。その体験は、水
上さんの批判的精神を育み、後の記者時代
や社会派推理小説家としての活躍へとつ
ながります。

ここでは代用教員時代の分教場を彷彿
とさせる教室を会場内に再現し、様々な職
業経験からの学びをご紹介します。

『働くことと生きること』に取り上げら
れた各職業を、直筆原稿や記者時代の執筆
記事、取材資料などによりご紹介すると
ともに、『ブンナよ、木からおりてこい』、『も
のの聲ひとの聲 自伝的教育論』など、関
連する著作の資料を展示します。あわせ
て、現役の中学2年生による『働くことと
生きること』の各章（各職業）についての
解説（感想）パネルを展示します。



画像③
代用教員時代の教え子と再会して（1976年頃）
撮影：横野尚一

第3章 老・病・死

みんな死ぬときはいつしよ。土になりにゆくんだよ。(中略)かえるくん、
きみは、ぼくになるんだから

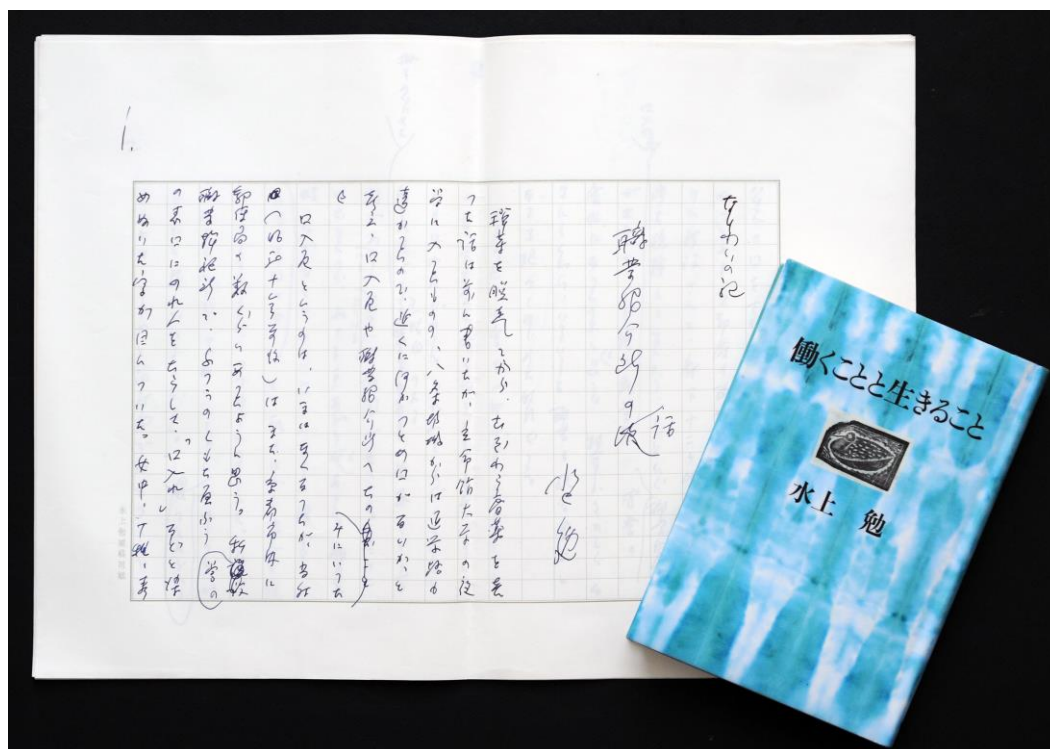
『ブンナよ、木からおりてこい』より

『働くことと生きること』では、火葬場の仕事に取り上げられています。火葬場で働く老人は、遺体を焼いた後の竈かまど掃除で、内壁にへばりついた人の脂をけずり、残った遺灰とともにコスモス畑にまきにいきます。そして老人は次のように語ります。

「わしがコスモスの花に変身する人間をいとおいしいと思いますのは、生きとる人間が、はなはだ、差別すきで、作業場（ヤキバのこと）の竈も、特、並、と階級をつけております、うしろへゆけば、かわりもない機関車のケツみたいな焚き口が三つならんでおるだけなのに、(中略)おかしいような……おろかしいような……そうして生きておった人も、焼かれると平等にコスモスになるからです」

多くの人が嫌がるであろうこの仕事に愛おしさを見出した老人に、水上さんは「天職とは何か」を学び、この老人こそが生いき仏ぼとけであると確信します。

ここでは老病死にまつわる著作の関連資料と、晩年、精力的に取り組んだ、書画（『折々の散歩道』原画）や陶芸（陶板や骨壺）を展示します。また、最後のコーナーでは、『働くことと生きること』や戯曲『釈迦内枢唄』でも描かれた、火葬場の竈を再現展示する予定です。



画像④
『働くことと生きること』と原稿「なりわいの記 職業紹介所の話」

関連企画

ジュニア対象

1 職場見学／子ども探偵団「山の仕事」

水上さんの本には、猟師や炭焼き職人、保線工^{ほせんこう}などが登場するけれど、山の中ではどんな人が働いているのかな？ 探検しながら、山の仕事を探しに行こう！

講師＝須藤正男（森林インストラクター）

日時＝10月19日（日）8:30～16:30

活動場所＝野山北・六道山公園（東京都西多摩郡瑞穂町）

対象＝小学4年生～中学生

定員＝事前申込20名

参加費＝無料（交通費は実費必要）

申込方法＝**10月5日（必着）**までに往復ハガキに①企画名（子ども探偵団「山の仕事」）②参加希望者全員の氏名・年齢③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、世田谷文学館「ジュニア」係まで。返信用にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。

2 職場体験／子ども探偵団ボランティアスタッフ募集

野外講座「子ども探偵団」での引率や交通安全、写真記録や救護担当など、参加者と一緒に自然の中で活動する、中学生・高校生のボランティアスタッフを募集します！

活動内容・申込方法等の詳細は、世田谷文学館ホームページをご覧ください。職場体験についてのお問い合わせは、電話（03-5374-9111）またはEメール（kodomo@setabun.or.jp）で、世田谷文学館ジュニア担当までお気軽にどうぞ！

[活動スケジュール]

10月19日（日）8:00～17:00 活動場所：野山北・六道山公園（東京都西多摩郡瑞穂町）

11月16日（日）7:30～17:30 活動場所：岩殿山丸山公園（山梨県大月市）

2015年1月18日（日）7:30～17:30 活動場所：小仏城山（東京都八王子市）

2015年2月22日（日）8:30～17:00 活動場所：愛宕山・多摩動物公園脇かたらいの路（東京都日野市）

※集合解散場所はすべて世田谷文学館です。館から活動場所への交通費は主催者が負担します。

※1回（1日）から参加可能です。



一般対象 会場=1階文学サロン

1 朗読会「水上勉を読む」

2011年から毎年当館で朗読劇を上演してきた「声を楽しむ朗読会」。今回は『越前竹人形』と『ブンナよ、木からおりてこい』を柱に小品を交えて水上作品を朗読します。

出 演=声を楽しむ朗読会（代表：青柳恵）
解 説=福島勝則（多摩美術大学名誉教授）
日 時=11月15日（土）13：30～16：30（小休憩あり）
定 員=当日先着100名（当日11：00から整理券を配布します）
料 金=無料

2 講演会「無言館の青春」

中学校の国語の教科書でも著作が紹介されている窪島誠一郎さんに、ご自身の仕事や、父である水上勉さんについて語っていただきます。

講 師=窪島誠一郎（信濃デッサン館・無言館館主、作家）
日 時=11月22日（土）14：00～15：30
定 員=事前申込150名
料 金=500円（高校生以下無料）

申込方法=**11月8日（必着）**までに往復ハガキに①企画名（講演会「無言館の青春」）
②参加希望者全員の氏名③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、世田谷文学館「水上勉展」係まで。返信用にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。

展覧会概要

- 展覧会名** 水上勉のハローワーク 働くことと生きること
- 会 期** 2014年10月18日(土)～12月21日(日)
- 会 場** 世田谷文学館 <http://www.setabun.or.jp>
東京都世田谷区南烏山 1-10-10 電話 03(5374)9111
- 開館時間** 午前10時～午後6時(展覧会入場は午後5時30分まで)
- 休 館 日** 毎週月曜日(ただし11月3日、11月24日は開館し、翌日休館)
- 交通案内**
- ・京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
 - ・小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用
「芦花恒春園」下車徒歩5分
- 入 場 料**
- 一般 700(560)円
65歳以上、大学生 500(400)円
障害者手帳をお持ちの方 350(280)円
- 高校生以下無料**
- * ()内は20名以上の団体料金
 - * 10月24日(金)は65歳以上無料
 - * 障害者手帳をお持ちの方の介添者(1名まで)は無料
- 主 催** 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館、
せたがや子ども文学館—子どもがつなぐ「地域と博物館」実行委員会
- 特別協力** 水上露子
- 後 援** 世田谷区、世田谷区教育委員会
- 助 成** 平成26年度文化庁 地域と共働した美術館・博物館創造活動支援事業

本展広報に関するお問い合わせ先

世田谷文学館学芸部 担当：大竹、佐野

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

「水上勉のハローワーク 働くことと生きること」 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 広報担当 行
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスにてお申し込みください。EメールにてJPEGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 _____ :

媒体種別 _____ : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト

発売・放送・更新予定日 _____ :

御社名 _____ :

御担当者名 _____ :

御住所 _____ :

Eメールアドレス _____ :

電話番号 _____ : FAX番号 _____ :

画像（ご希望の画像番号に印をつけてください。）

画像1 展覧会ポスター

画像2 撮影：槇野尚一

画像3 代用教員時代の教え子と再会して（1976年頃） 撮影：槇野尚一

画像4 『働くことと生きること』と原稿「なりわいの記 職業紹介所の話」